

令和4年度
つくば秀英高等学校 経営計画表

1. 学校の現況

(令和4年5月1日現在)

学校名	つくば秀英高等学校			課 程	全日制		学校長名	石川 英昭		
教頭名	石塚 安喜子			副教頭名	沢辺 卓己		事務長名	坂本 光久		
教職員数	校長 1	教諭 29	養護教諭 1	常勤講師 12	実習助手 1	非常勤 講師 27	事務職員 13	技術員 1	合 計	85
生徒数	(学科) 普通科	1 年		2 年		3 年		合 計		クラス数 合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	
		362		322		217		901		

2. 目指す学校像

建学の精神(自主・博愛・創造)のもと、国際的研究学園都市つくばにふさわしい、進取の気風あふれる学校。

3. 教育方針

- 1) 〈自主〉「わくわくする心」で何にでも挑戦する人間的強さを育てる。
- 2) 〈博愛〉教師・生徒すべてが他者の存在を尊重し、一人ひとりを大切にする。
- 3) 〈創造〉知識を統合しそれを表現する過程を通して、新たな視点を身につけさせる。
- 4) 〈英語の秀英〉英語力とともに多様な価値観を学び、国際的な広い視野を獲得させる。

4. 中期的目標

創立30周年を見据え、魅力あふれる学校づくりを行うことで、存在感のある進学校を目指す。

5. 今年度の重点目標

- 1) 教員研修に力を入れ、ICTの活用によるアクティブラーニングを取り入れた授業改革を推進する。
- 2) ICTを活用した「温習教育」による個別最適化学習を強化すべく工夫する。
- 3) 「ICA(国際コミュニケーション活動)プログラム」による動機づけを軸とし、英語力向上を目指す。
- 4) 部活動を通じて強い心をつくり、何事にも負けない精神力を養う。
- 5) 生徒および保護者とのコミュニケーションを蜜にし、三者の信頼関係を築く。

令和4年度 つくば秀英高等学校 学校関係者評価結果表

1. 本年度の重点目標

- 1) 教員研修に力を入れ、ICTの活用によるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業改革を推進する。
- 2) 「温習教育」による個別最適型学習を効率化すべく工夫する。
- 3) 「ICA(国際コミュニケーション活動)」教育による動機づけを軸とし、英語力向上を目指す。
- 4) 部活動を通じて強い心をつくり、何事にも負けない精神力を養う。
- 5) 生徒および保護者とのコミュニケーションを密にし、三者の信頼関係を築く。

2. 自己評価の結果に対する学校関係者評価

評価区分	重点目標	自己評価	学校関係者評価※	
教務部	教務	主体的な学びを伸ばすための授業力向上	4	4
	ICT	新しい校務システム導入による業務のスリム化 校内通信環境の充実 教育ICT環境の充実 校務負担軽減に向けた取り組み	5	
	第1学年	学力の向上 学園生活の充実 進路の具体化 保護者との連携	4～5	
	第2学年	ICT×アクティブラーニングを活用して学力の向上 学園生活の充実 進路の具体化 保護者との連携	4～5	
	第3学年	学力の向上 学園生活の充実 進路実現 保護者との連携	4～5	
	国語科	共通テストへの教員間の情報共有 思考・論述力の強化 多角的視野の育成 ICTを取り入れたアクティブ・ラーニング	4～5	
	地歴・公民科	成績の向上 社会人としての資質の向上 教員研修の充実	4～5	
	数学科	成績の向上(1)(2) 課題解決能力の育成	4	
	理科	学力の向上(1)(2)	4～5	
	英語科	成績の向上 英検合格率アップ 言語活動を増やす 英語学習へのモチベーションアップ	4～5	
	保健体育	心身の健康を保持増進する能力を高める	5	
	芸術科	感性を磨き、豊かな心の育成	5	
	情報科	学力の3要素を基盤とした素養の育成 パソコン検定合格率アップ プレゼンテーション能力の向上 プログラミング教育の充実	4～5	
家庭科	授業の改革 教員のスキルアップ	4		

校務分掌		重点目標	自己評価	学校関係者評価※
入試・進路統括	入試	単願入学者の獲得 WEB戦略の強化 「わくわく」体験の強化	5	5
	進路	生徒の進路意識の向上 進路指導(大学入試・専門学校・就職)への支援 大学進学率80%を目指して 学習活動の支援	4~5	4
	Sコース	学力向上 チーム・コーティング制の導入 国公立大学(特に茨城県内)の合格者(割合)増 GMARCH以上の私立大学の合格者増	4~5	
	Tコース	基礎学力の定着 T選クラスの運用強化 学力の定着 進路実現を目指したキャリア教育の充実 国公立大学、日東駒専への合格を目指す	4~5	
生徒指導	生活指導 いじめ対策 室	「いじめ根絶”ゼロ”」を目指して 携帯端末3か条	4	
	保健環境 カウンセリ ング係	心身の悩みとフォローアップ 校舎内外の環境整備の徹底	4	
	特別活動係	行事の精選と協働学習の充実	4	
	PTA係	PTA各組織の円滑な運営と活性化	4	

※本校の教育活動に関する意見交換により得られた自己評価の結果等についての評価である。

評価基準

5:十分適正である 4:適正である 3:概ね適正である 2:やや適正に欠ける 1:適正でない

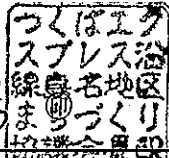
令和4年度 つくば秀英高等学校 第三者評価結果表

	評価事項		評価
1	本校の教育理念の実践について		⑤: 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
2	当年度の教育目標に対する取組とその成果について (主に授業、生徒指導、進路指導、部活動等の状況を中心に)	校務分掌	⑤: 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		学年	5: 十分適正である ④: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		コース	5: 十分適正である ④: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		教科	5: 十分適正である ④: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
3	当年度の課題と今後の方策について		⑤: 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
4	本校の組織運営について		⑤: 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない

(評価者の意見等)

- ・建学の精神に基づく教育方針や教育理念の実践は十分に評価できる。
- ・コロナ禍におけるオンライン遠隔授業やipadを利用した先駆的な授業展開、その後の「学び」への対応を高く評価したい。
- ・秀英ブランドは確立しつつあり、これが対外的に有効に発信され、入学者増に結びついているものと思う。

つくば市
島名まちづくり協議会 会長 鈴木信男



※上記は自己評価結果や学校関係者評価の実施状況を踏まえて、本校の学校運営の状況について評価したものである。